

山形県新型コロナウイルス感染症に係る危機対策本部

第15回本部員会議

次 第

日時 令和2年11月29日（日）
午後3時～
場所 県庁5階 502会議室

1 開 会

2 協 議

(1) 新型コロナウイルス感染症の発生状況等について

(2) 医療専門家からの意見について

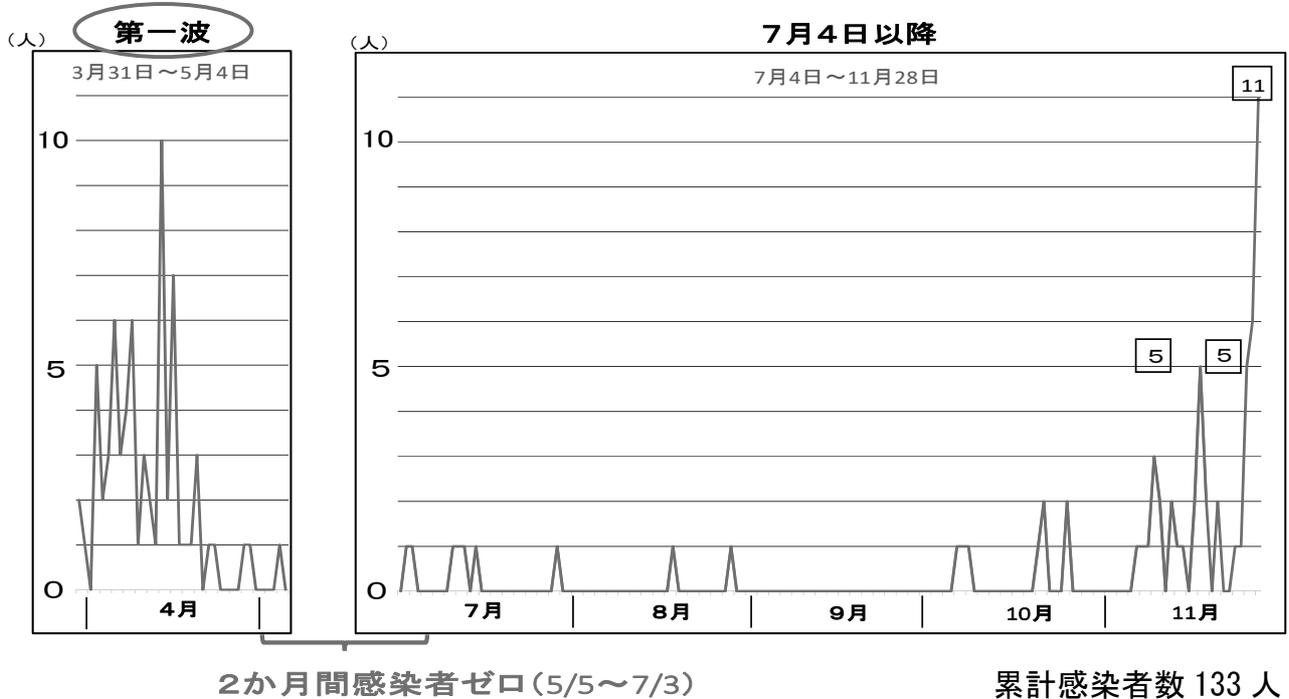
(3) 検査、医療提供体制について

(4) その他

3 閉 会

県内における新型コロナウイルス感染症の現状

1 感染者の推移



2 入院患者数 (11月29日 午後3時現在)

病院名	県立中央病院	山形大学附属病院	県立新庄病院	公立置賜総合病院	日本海総合病院	その他	合計
病床数	39	27	7	34	41	68	216
(うち重症者病床数)	(8)	(6)	(0)	(4)	(8)	(0)	(26)
現在の入院患者数	7	0	0	1	17	7	32
(うち重症者数)							(1)
病床占有率	17.9%	0.0%	0.0%	2.9%	41.5%	10.3%	14.8%

県内における新型コロナウイルス感染者の確認事例について（10月以降）

（R2. 11. 28時点）

事例	発生届日	年代	性別	居住地	備考
79	R2. 10. 7	20代	男性	山形市	県外滞在歴あり
80	R2. 10. 8	60代	女性	山形市	事例79関連
81	R2. 10. 9	40代	男性	米沢市	県外勤務あり
82	R2. 10. 21	40代	男性	天童市	県外滞在歴あり
83	R2. 10. 22	10代	男性	天童市	事例82関連
84	R2. 10. 22	70代	女性	天童市	事例82関連
85	R2. 10. 26	80代	男性	天童市	事例82関連
86	R2. 10. 26	40代	女性	天童市	事例82関連
87	R2. 11. 7	30代	男性	山形市	県外滞在歴あり
88	R2. 11. 8	30代	女性	山形市	事例87関連
89	R2. 11. 9	10歳未満	男性	山形市	事例87関連
90	R2. 11. 10	30代	男性	山形市	事例87関連
91	R2. 11. 10	30代	男性	山形市	事例87関連
92	R2. 11. 10	20代	女性	山形市	事例87関連
93	R2. 11. 11	60代	男性	天童市	事例87関連
94	R2. 11. 11	30代	女性	村山市	事例87関連
95	R2. 11. 13	20代	女性	県外	（感染拡大地域より来県）
96	R2. 11. 13	10歳未満	女性	山形市	事例91関連
97	R2. 11. 14	50代	男性	白鷹町	事例93関連
98	R2. 11. 15	50代	男性	県外	（感染拡大地域より来県）
99	R2. 11. 17	40代	男性	米沢市	県外滞在歴あり
100	R2. 11. 17	50代	女性	山形市	
101	R2. 11. 18	40代	女性	酒田市	県外届出例関連
102	R2. 11. 18	40代	男性	鶴岡市	県外届出例関連
103	R2. 11. 18	30代	男性	鶴岡市	県外届出例関連
104	R2. 11. 18	40代	女性	山形市	県外で家族陽性
105	R2. 11. 18	10代	男性	山形市	事例100関連
106	R2. 11. 19	40代	女性	鶴岡市	事例102関連
107	R2. 11. 19	30代	女性	鶴岡市	事例103関連
108	R2. 11. 21	50代	女性	酒田市	
109	R2. 11. 21	10代	女性	酒田市	事例108関連
110	R2. 11. 24	50代	男性	酒田市	
111	R2. 11. 25	50代	男性	上山市	（県外者との接触あり）

事例	発生届日	年代	性別	居住地	備考
112	R2. 11. 26	60代	男性	酒田市	
113	R2. 11. 26	40代	男性	遊佐町	
114	R2. 11. 26	30代	男性	鶴岡市	事例 110 関連
115	R2. 11. 26	20代	男性	鶴岡市	事例 110 関連
116	R2. 11. 26	20代	女性	県外	(感染拡大地域より来県)
117	R2. 11. 27	40代	男性	酒田市	
118	R2. 11. 27	60代	男性	酒田市	
119	R2. 11. 27	80代	女性	鶴岡市	事例 116 関連
120	R2. 11. 27	60代	女性	鶴岡市	事例 116 関連
121	R2. 11. 27	20代	女性	県外	(感染拡大地域より来県)
122	R2. 11. 27	20代	女性	上山市	
123	R2. 11. 28	50代	男性	山形市	事例 122 関連
124	R2. 11. 28	50代	女性	山形市	事例 122 関連
125	R2. 11. 28	20代	女性	山形市	事例 122 関連
126	R2. 11. 28	20代	女性	寒河江市	(県外で勤務)
127	R2. 11. 28	50代	男性	酒田市	事例 110、114、115 関連
128	R2. 11. 28	20代	女性	酒田市	事例 110、114、115 関連
129	R2. 11. 28	60代	男性	酒田市	事例 117 関連
130	R2. 11. 28	40代	女性	酒田市	事例 117 関連
131	R2. 11. 28	10歳未満	女性	酒田市	事例 117 関連
132	R2. 11. 28	60代	女性	酒田市	事例 117 関連
133	R2. 11. 28	20代	男性	酒田市	事例 118 関連

各種指標の状況（11月29日現在）

《県注意・警戒レベル》	
感染経路不明者数	3人/週 (※)
重症入院患者数	1人
1週間あたりの新規感染者数	24人/週
60歳以上の入院患者数	7人

※現在、感染経路調査中：3人

●累計感染者数：133人

●11月の地域別感染者数

地 域	感染者数
村山地域	18人
最上地域	0人
置賜地域	2人
庄内地域	23人
県外在住者	4人
合 計	47人

《政府のステージⅢ指標》	(山形県)	(政府指標)
① 病床のひっ迫具合		
(病床全体)		
最大確保病床の占有率	14.8%	20%以上
{ 現時点の確保病床数の占有率	14.8%	25%以上
(重症者用病床)		
最大確保病床の占有率	3.8%	20%以上
{ 現時点の確保病床数の占有率	3.8%	25%以上
②療養者数（人口10万人あたり）	2.99人	15人以上
③PCR陽性率（11月22日時点）	1.7%	10%
④新規報告者数（人口10万人あたり）	2.24人/週	15人/週
⑤直近1週間と先週1週間の比較	先週より多い	先週より多い
⑥感染経路不明割合	12.5%	50%

◆ 県注意・警戒レベルと政府が示す4段階のステージ ◆

山形県における新型コロナ対応の目安
〔注意・警戒レベル〕

今後の感染状況の変化に対応した対策の実施に関する指標及び目安
(令和2年8月7日新型コロナウイルス感染症対策分科会提言)

	状態	参考とする指標等	対応検討策
レベル1	県内では確認されていないが、国内で感染者が確認されている状態	—	<ul style="list-style-type: none"> 県民は「新・生活様式」の実践を心がける 事業者は、業種別の感染拡大予防ガイドラインに取り組み ○感染が増加している地域への移動はできるだけ控えるよう、県民に呼びかけ なお、必要があって移動する場合は、移動先での「新・生活様式」を徹底するよう、呼びかけ
レベル2 〔注意〕	県内での感染者の確認が限定的な状態	【1週間あたりの新規感染者数】 1人/週 以上	レベル1に加え、 ○「新・生活様式」の実践及び業種別感染拡大予防ガイドラインの徹底を県民と事業者呼びかけ ○発熱等の症状がある方への早期受診相談の呼びかけ ○業界団体に対し、ガイドライン実践の自主点検を依頼
レベル3 〔警戒〕	感染の広がりが懸念される状態	【感染経路不明者数】 1人/週 以上 かつ 【重症入院患者数】 1人以上 以下の指標も参酌する。 【1週間あたりの新規感染者数】 【60歳以上の入院患者数】	レベル2に加え、 ○感染発生状況や特徴に応じた注意喚起や感染防止対策の徹底を協力依頼 【例:高齢者や基礎疾患のある重症化リスクの高い方に対し、より慎重な行動を呼びかけ :感染が発生した施設と同様の業態の業界団体及び事業者に対し、ガイドライン遵守の徹底を依頼 など】
レベル4 〔特別警戒〕	感染が拡大傾向にある状態	【感染経路不明者数】 2人/週 以上 かつ 【重症入院患者数】 3人以上 以下の指標も参酌する。 【1週間あたりの新規感染者数】 【60歳以上の入院患者数】	レベル3に加え、 ○感染発生状況や特徴に応じた行動を協力依頼 【例:ガイドライン実践施設の利用を呼びかけ :実践していない施設の利用を控えるよう呼びかけ】
レベル5 〔非常事態〕	感染が拡大し、医療提供体制のひっ迫が懸念される状態	医療現場のひっ迫状況を踏まえて判断 以下の指標も参酌する。 【重症入院患者数】 【1週間あたりの新規感染者数】 【60歳以上の入院患者数】	○県独自の非常事態宣言の発出 ○新型インフルエンザ等対策特別措置法第24条第9項に基づき次の事項を協力要請 <ul style="list-style-type: none"> 不要不急の外出自粛 ガイドラインを実践しない施設の利用自粛 ガイドラインを実践しない施設の営業自粛(休業)

- ◆ 各レベルの適用にあたっては、上記内容に加え、県内における感染の具体的な状況(地域分布、クラスター発生状況等)や、首都圏や近隣県の感染状況なども踏まえ、全体的に判断する。
 なお、感染状況によっては、地域を特定した対応策を検討する。
- ◆ この目安は、新型コロナに関する今後の状況変化に応じて随時見直すこととする。

	状態	指標及び目安	講ずべき施策
ステージI	感染者の散発的発生及び医療提供体制に特段ない段階		○ 対事業者 <ul style="list-style-type: none"> ガイドラインを適宜見直し、遵守を徹底。遵守が不十分な場合の休業要請も考慮。(基本的な感染予防の徹底(3密回避等)) COCOA 及び地域ごとの対策アプリの更なる周知及び普及促進の更なる強化。 リスクの高い場所への積極的な介入・指導の継続強化(検査の強い要請など、クラスターが発生した店舗等への対策強化)。 テレワーク等の更なる推進。 ○ 対個人 <ul style="list-style-type: none"> COCOA 及び地域ごとの対策アプリの普及促進 3密回避を遵守した「新しい生活様式」の徹底に向けた注意喚起(基本的な感染予防の徹底) ターゲット毎に適切なメディアを通じた分かりやすいメッセージの発信。
ステージII	感染者の漸増及び医療提供体制への負荷が蓄積する段階	3密環境などリスクの高い場所でクラスターが度々発生することで、感染者が漸増し、重症者が徐々に増加してくる。このため、保健所などの公衆衛生体制の負荷も増大するとともに、新型コロナウイルス感染症に対する医療以外の一般医療も並行して実施する中で、医療提供体制への負荷が蓄積しつつある。	重症化しやすい人(高齢者など): 3密の徹底的な回避、安全な活動については推奨。 中年: 職場での感染予防徹底、宴会等の自粛。 若者: クラブ活動等における感染予防徹底、宴会等の自粛。 医療従事者・介護労働者: リスクの高い場所に行かない。
ステージIII	感染者の急増及び医療提供体制における大きな支障の発生を避けるための対応が必要な段階	ステージIIと比べてクラスターが広範に多発する等、感染者が急増し、新型コロナウイルス感染症に対する医療提供体制への負荷がさらに高まり、一般医療にも大きな支障が発生することを避けるための対応が必要な状況。 (1)医療提供体制等の負荷 ①病床のひっ迫具合 病床全体 ・最大確保病床の占有率 1/5 以上 ・現時点の確保病床数の占有率 1/4 以上 うち重症者用病床 ・最大確保病床の占有率 1/5 以上 ・現時点の確保病床数の占有率 1/4 以上 ②療養者数 人口10万人当たりの全療養者数15人以上 ※全療養者: 入院者、自宅・宿泊療養者等を合わせた数 (2)監視体制 ③PCR陽性率 10% (3)感染の状況 ④新規報告数 15人/10万人/週以上 ⑤直近一週間と先週一週間の比較 直近一週間が先週一週間より多い。 ⑥感染経路不明割合 50%	ステージI・IIの施策に加えて、 ○ 対事業者 <ul style="list-style-type: none"> ガイドラインを遵守していない酒類の提供を行う飲食店の休業要請等。 イベント開催の見直し。 人が集中する観光地の施設等における入場制限等。 接触確認アプリの導入をイベントや企画旅行等の実施に当たって要件化。 飲食店における人数制限。 ○ 対個人 <ul style="list-style-type: none"> 夜間や酒類を提供する飲食店への外出自粛の要請。 若年者の団体旅行など感染予防を徹底できない場合等における、感染が拡大している地域との県境を越えた移動自粛の徹底。
ステージIV	爆発的な感染拡大及び深刻な医療提供体制の機能不全を避けるための対応が必要な段階	病院間クラスター連鎖などの大規模かつ深刻なクラスター連鎖が発生し、爆発的な感染拡大により、高齢者や高リスク者が大量に感染し、多くの重症者及び死亡者が発生し始め、公衆衛生体制及び医療提供体制が機能不全に陥いることを避けるための対応が必要な状況。 (1)医療提供体制等の負荷 ①病床のひっ迫具合 病床全体 ・最大確保病床の占有率 1/2 以上 うち重症者用病床 ・最大確保病床の占有率 1/2 以上 ②療養者数 人口10万人当たりの全療養者数25人以上 (2)監視体制 ③PCR陽性率 10% (3)感染の状況 ④新規報告数 25人/10万人/週以上 ⑤直近一週間と先週一週間の比較 直近一週間が先週一週間より多い。 ⑥感染経路不明割合 50%	緊急事態宣言など、強制性のある対応の検討 <ul style="list-style-type: none"> 接触機会の低減を目指した外出自粛の要請。 県境を越えた移動の自粛要請。 感染リスクやガイドラインの遵守状況等を考慮しつつ、生活必需品等を取り扱う事業者等を除き施設の使用制限。 人が集中する観光地の施設や公共施設の人数制限や閉鎖等。 イベントは原則、開催自粛。集会における人数制限。 生活圏での感染があれば学校の休校等も検討。 テレワーク等の強力な推進をはじめ職場への出勤をできるだけ回避。

(ステージの判断に当たっての考慮要素)
 ○ 提案する指標は「あくまで目安」であり、また、一つひとつの指標をもって機械的に判断するのではなく、国や都道府県はこれらの指標を「総合的に判断」して、感染の状況に応じた積極的かつ機動的な対策を講ずる。
 ○ その際、都市部と地方部では医療提供体制をはじめ様々な環境が異なるため、「新規報告数が多い都市部」においては「医療提供体制に関する指標」をより重視し、「地方部」においては「感染の状況に関する指標」を重視するなど、地域の実情に応じて判断することが必要である。また、「医療提供体制が脆弱な地方部」においては、これらの指標に満たない段階で、積極的に対策を講じる必要がある。

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

